

心臓エコー施行例における心機能評価の臨床的意義における後ろ向き研究 のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2021年2月19日～2025年3月31日

〔研究課題〕 心臓エコー施行例における心機能評価の臨床的意義における後ろ向き研究

〔研究目的〕

高齢化社会の到来により、高齢者に対する治療の機会が増えています。新たな抗がん剤の心毒性による心不全の発症が報告されるようになりました。循環器領域では低侵襲の経カテーテル大動脈弁置換術や経皮的僧帽弁接合不全修復術が認可され、より高齢者に対する治療の機会が増えてきています。そのため、様々な治療の前後で、心エコー検査にて心機能評価が行われています。本研究の目的は、65歳以上の高齢者に対して行われた心臓超音波検査における左室機能評価の臨床的意義を見出すことを目標とします。

〔研究意義〕

心機能評価の指標である左室収縮能(LVEF)、左室拡張能(E/A, E/e')の年齢別の基準値を明らかにします。さらに、経時的に計測できた症例に関しては、左室機能の変化に関与する因子を、患者背景および治療内容を含めて明らかにし、治療計画に役立てます。

〔対象・研究方法〕

当院において2009年5月から2021年2月まで経胸壁心エコー検査を施行し、心機能を評価された患者さんの中で、20歳以上の方を対象とします。年齢別(20～39歳、40～64歳、65～74歳、75～89歳、90歳～)に心機能の指標である、左室駆出率(LVEF)、左室拡張能を比較評価します。さらに、経時的に計測できた症例に関して、左室機能の変化に関与する予測因子を、各心疾患における心エコー所見や動脈硬化リスクファクター、治療内容等を組み合わせて明らかにしてゆきます。既存の検査データを用いるので、新たな検査・診察は必要としません。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部内科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

「臨床研究における記録保管に関する標準業務手順書」に従います。研究に携わる関係者は研究対象者の個人情報保護に最大限の努力を払います。研究責任／分担医師は、匿名化したデータを用い、個人を特定できる情報(氏名・住所・電話番号など)は記載しません。研究責任医師は、当該臨床研究の実施に係る記録(文書および電子記録)を研究終了後TARCに10年間保存し、その後破棄いたします。

〔その他〕

本研究は、後ろ向きの疫学調査であり、患者さんへの経済負担や支払いは生じません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部内科学講座 准教授 横山直之
研究分担者: 帝京大学医学部内科学講座 大学院生 池田佳之
住所: TEL:03-3964-1211 (代表) [内線 30415]